

マーケット・アイ (概観)

日銀金融経済月報		日銀金融市場調節方針			日本の主要統計指標													
9月：基調判断(1年2か月連続で据え置き) わが国の景気は、緩やかに拡大している。 公共投資は、低調に推移している。() 輸出は、増加を続けている。() 生産は、足元横ばいながら、基調としては増加を続けている。() 設備投資は、引き続き増加基調にある。() 雇用者所得は、緩やかな増加を続けている。() 個人消費は、底堅く推移している。() 住宅投資は、 足もと減少している。 () 国内企業物価は、国際商品市況高などを背景に、3か月前比でみて上昇している。() 消費者物価(除く生鮮食品)は、前年比は、ゼロ%近傍で推移している。() 先行きについては、景気は緩やかな拡大を続けるとみられる。		決定日 03.10.10 04.1.20 06.3.9 06.7.14 07.2.21	金融市場調節方針 日本銀行当座預金残高が 27~32兆円 程度となるよう金融市場調節を行う。 日本銀行当座預金残高が 30~35兆円 程度となるよう金融市場調節を行う。 無担保コールレート(ON物)を、概ね ゼロ% で推移するよう促す。 無担保コールレート(ON物)を、 0.25% 前後で推移するよう促す。 無担保コールレート(ON物)を、 0.5% 前後で推移するよう促す。	基準割引および基準貸付利率 0.10% 0.10% 0.10% 0.40% 0.75%	項目 年・期 05/10-12 06/1-3 06/4-6 06/7-9 06/10-12 07/1-3 07/4-6 07/7-9	実質GDP 前期比年率 (%) 1.5 2.4 2.4 0.5 5.6 3.0 1.2	名目GDP 前期比年率 (%) 1.2 0.9 1.7 0.9 5.9 1.4 0.7	GDPデフレーター 前年同期比 (%) 1.6 1.3 1.1 0.7 0.5 0.3 0.3	需給ギャップ (%) 0.5 0.3 0.0 0.5 0.5 0.8 0.2	日銀短観業況判断DI 大企業製造業 (ポイント) 21 (12月) 20 (3月) 21 (6月) 24 (9月) 25 (12月) 23 (3月) 23 (6月) (9月)	項目 年・月 07/1 07/2 07/3 07/4 07/5 07/6 07/7 07/8	全国消費物価 (除く生鮮食品)前年同月比 (%) 0.0 0.1 0.3 0.1 0.1 0.1 0.1	国内企業物価 前年同月比 (%) 2.1 1.7 2.0 2.3 2.2 2.3 2.2	景気動向指数DI 先行 (%) 37.5 25.0 33.3 16.7 45.8 75.0 72.7	一致 (%) 27.3 27.3 9.1 72.7 63.6 81.8 70.0	鉱工業生産 (季節調整)前月比 (%) 1.7 0.7 0.3 0.2 0.3 1.3 0.4	機械受注 (民間除く船舶・電力)前月比 (%) 3.6 4.9 4.5 2.2 5.9 10.4 17.0	完全失業率 (季節調整)全体 (%) 4.0 4.0 4.0 3.8 3.8 3.7 3.6

政府月例経済報告		経済カレンダー		OIS (Overnight Index Swap)		金利予想			
9月：基調判断(10か月連続で据え置き) 景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、回復している。 企業収益は、改善している。() 設備投資は、 このところ弱い動きがみられるものの、基調として増加している。 () 雇用情勢は、厳しさが残るものの、着実に改善している。() 個人消費は、持ち直している。() 輸出は、緩やかに増加している。() 生産は、横ばいとなっている。() 先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、 アメリカ経済や原油価格の動向 が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。 (カッコ内は方向性を表示)		日付 9/28 9/30 10/1 10/10 10/11 10/15 10/26 10/31	内容 8月の鉱工業生産/8月の家計調査 8月の完全失業率、有効求人倍率 9月都区部8月全国コアCPI 金融商品取引法施行 日銀9月短観、日本郵政公社民営化 金融政策決定会合1日目 金融政策決定会合2日目 金融経済月報、総裁会見 8月の機械受注統計 日銀支店長会議 10月都区部9月全国コアCPI 9月の鉱工業生産速報 金融政策決定会合 展望レポート、総裁会見	期間 (07~08年) 07/10-12-11/13 11/14-12/20 12/21-08/1/22 1/23-2/15 2/18-3/7 3/10-4/9 4/10-5/20 5/21-6/13	固定金利 (%) 0.53000% 0.57500% 0.63500% 0.65500% 0.68500% 0.71500% 0.73500% 0.75500%	織り込み率(*) (%) 12% 30% 54% 62% 74% 86% 94% 2%	種類 無担保コール(加重平均) 短期国債(FB/TB) C P (3か月物)	今後1か月程度を展望 (O/N)期間中の平均 0.48~0.70% (3M)0.55~0.60% (6M)0.58~0.62% (1Y)0.62~0.70% a-1+ 0.68~0.70% a-1 0.70~0.80% a-2 0.80~0.90%	備考 ONは邦銀と外銀で調達レートにやや格差がつく展開。期末初物レートは0.65~1.00%程度の出合い。新BIS規制の影響で地銀などは運用に慎重な姿勢。 早期利上げ観測の後退や、投資家の強い購入意欲による需給の改善で、利回りは低下している。 投資家、ディーラーの運用資金が戻り、レートは小幅低下している。

2007年4月の展望レポート(7月中間評価)						市場関係者の日銀利上げ予想時期は、12~2月頃へ後ずれ			
2007年4月「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)						10月以降の主なスケジュール			
指標	2006年度実績	2007年度実績(確定分までの平均)	政策委員の大勢見通し(太字は中央値)			月日	スケジュール	注目材料	金融市場の混乱を受け、世界経済の不確実性が強まるなか、日銀の第三次利上げを取り巻く環境も不透明感を増している。07年通信が19日実施したアンケート調査によると、市場関係者の利上げ予想時期は年内、年明けで分散しているが、12~2月頃が中心となっており全体的に後ずれしている。OIS取引でも12月の利上げ織り込み率は50%程度にとどまっている。日銀は追加利上げに意欲を示しているが、12月実施に向けての注目点は、米追加利下げの有無、日銀9月短観、展望レポートの内容、7-9月期GDPのプラス成長復帰、コアCPIのプラス転化、日銀12月短観の内容などがあげられる。
			2007年度	06年10月時点の見通し	2008年度	07.10.1	日銀9月短観	大企業DIは小幅悪化か	
実質GDP	+2.1%	1.2%	+2.0~+2.1% +2.1%	+1.9~+2.4% +2.1%	+2.0~+2.3% +2.1%	10.4	ECB理事会		
国内企業物価	+2.8%	+2.2%	+0.7~+0.8% +0.7%	+1.1~+1.5% +1.2%	+0.8~+1.0% +1.0%	10.10~11	日銀金融政策決定会合		
消費者物価(除く生鮮食品)	+0.1%	0.1%	+0.0~+0.2% +0.1%	+0.4~+0.5% +0.5%	+0.4~+0.6% +0.5%	10.19頃	G7財務相・中央銀行総裁会議	ガブライム問題を議論	
						10.30~31	米FOMC	10月又は12月に再利下げも	
						10.31	日銀金融政策決定会合(展望レポート)	展望レポートのメインテーマは維持か	
						10末頃	欧米金融機関7-9月期の決算発表	金融市場の相互不信が改善か	
						11.8	ECB理事会		
						11.12~13	日銀金融政策決定会合		
						11.13頃	7-9月期GDP一次速報	再び、プラス成長に復帰か	
						11.30	10月の全国CPI	コアCPIがプラス圏に浮上か	
						12.6	ECB理事会		
						12.11	米FOMC	再利下げの可能性も	
						12.14	日銀12月短観		
						12.19~20	日銀金融政策決定会合		
						08.1.20頃	通常国会召集	日銀総裁等の後継問題議題へ	
						1.21~22	日銀金融政策決定会合	展望レポートの中間評価	
						2.14~15	日銀金融政策決定会合		
						2.(中旬)	10-12月期GDP一次速報		
						3.6~7	日銀金融政策決定会合		
						3.19	福井総裁、武蔵・岩田副総裁任期満了		